

令和4年10月31日
(2022年)

保護者の皆様へ

吹田市立山手小学校
校長 瀬崎 浩美

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

朝夕めっきり寒くなりましたが、保護者の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。また、平素は、本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本年度6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返しました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

児童の平均正答率は全国値を上回っており、多くの児童に基礎的・基本的な国語に関する知識や技能が身につけていると考えられる。しかし、1つの問題で全国値を下回るものもあり、課題があると考えられる。

●国語《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

- ・「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」問題と、「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題は、全国値を上回っている。

書くこと

- ・「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」問題は、全国値を上回っている。しかし、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」問題は、全国値をやや上回っているものの、正答率が低かった。

読むこと

- ・「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」問題と、「表現の効果を考える」問題は、全国値を上回っている。

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・「漢字を文の中で正しく使う」ことは、全国値を上回っている。

我が国の言語文化に関する事項

- ・「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」問題が、全国値をやや下回っている。

☆国語科における成果と今後の改善点について

今回の調査の結果は、全国値を上回っており良好な結果であった。中でも、特に「読むこと」については、本校の数値は高かった。これは、国語科の研究を積み重ねてきた大きな成果であると考えられ

る。授業の中で物語の登場人物の相互関係などを丁寧に読み取ったり、文章全体の構成や書き表し方などに着目して学習を進めたりしてきた結果だと判断できる。しかし、「書くこと」に関しては、全国値を上回っているものの、正答率が低く課題がみられる。

今回の調査の結果から、「書くこと」については文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけたり、よさを言葉に表したりすることに課題がみられる。そうした力を育成するためにも、自分の書いた文章を、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点から、具体的に感想や意見を伝え合う活動をさらに深め、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように、書く機会をより多くもつことができるよう取り組んでいく。

●算数《概要》

児童の平均正答率は、ほとんどの問題において全国値を上回っていた(1つの問題のみ、全国値を下回る)。多くの児童に基礎的・基本的な算数に関する知識や技能が身につけていると考えられる。しかし、全国値を上回っているが、正答率が高くないものもあり、課題があると考えられる。

●算数《各領域における成果と課題》

数と計算

・「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する」問題と「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述する」問題は、全国値を上回っている。

図形

・「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する」問題と、「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解する」問題は全国値を上回っている。しかし、「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する」問題は、全国値を下回っている。

変化と関係

・「百分率で表された割合を分数で表す」問題と、「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する」問題は、全国値を上回っている。しかし、「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する」問題は、全国値を上回っているものの、正答率が低かった。

データの活用

・「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる」問題は、全国値を上回っている。

☆算数科における成果と今後の改善点について

今回の調査の結果、ほとんどの問題で全国値を上回っており、基礎的・基本的な知識や技能は身につけていると言える。これは、本校が取り組んできた算数科における少人数指導や月に1～2回放課後に行っている学力保障の日の成果と考えられる。

その一方で、「変化と関係」の領域での正答率が低く、課題がみられる。果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの果汁の量の割合について、日常の具体的な場面に対応させながら理解できるように指導していくことが大切である。また、「図形」の領域では、示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、それがどのような図形なのか問われた問題だったが、それを判断できるようにするためには、平行四辺形、ひし形、台形などの図形の性質をより丁寧に理解させることが大切である。また、それらの性質を生かして作図する活動も積極的に取り組んでいく。

●理科《概要》

理科の各領域全体の平均正答率は、全国値をやや上回ったが、全国値をやや下回る問題が5つあった。多くの児童に基礎的・基本的な理科に関する知識や技能が一定程度身についていると考えられるが、正答率が低いものもあり、課題があると考えられる。

●理科《各領域における成果と課題》

エネルギー

- ・「問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録する」問題は、全国値を上回っている。しかし、「日光は直進することを理解する」問題は、全国値をやや下回っている。

粒子

- ・「メスシリンダーの正しい扱い方を身に付ける」問題は、全国値を上回っている。しかし、「メスシリンダーという器具を理解する」問題は、全国値をやや下回っている。

生命

- ・「自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述する」問題は、全国値を上回っている。しかし、「昆虫の体のつくりを理解する」問題は、全国値を下回っている。

地球

- ・「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ」問題は、全国値を上回っている。しかし、「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ」問題は、全国値をやや下回っている。

☆理科における成果と今後の改善点について

今回の調査の結果、ほとんどの問題で全国値をやや上回っていることから、基礎的・基本的な理科に関する知識や技能が一定程度身についていると言える。これは、本校が取り組んできた理科における専科指導の成果と考えられる。

全体的には、全国値を上回っているが、5つの問題で全国値をやや下回る結果となった。さらに詳しく分析すると、そのうちの4つが「理解しているかどうか」を問う「知識・技能」の問題であり、知識として定着しているかどうかが大きく関わっていることがわかる。

最も全国値との差が大きかった「昆虫の体のつくり」の問題であるが、これは、ナナホシテントウを対象として、昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であることを説明する問題で、昆虫の体のつくりを理解していることが求められる。

そうした力を育成するためにも、複数の種類の昆虫の体のつくりを比較しながら調べ、差異点や共通点を基に、共通した特徴である成虫の頭、胸、腹といった部分に着目して、調べたことを他者に正確に説明する活動が大切である。

他の問題も同様に、身近な事物・現象について観察や実験データを分析して、根拠を示し、他者に説明できる力を育むための活動をにさらに取り組んでいく。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】(<どちらかといえば、当てはまる>を含む)

<特に全国値を上回っている項目>

- ・「朝食を毎日食べていますか」
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
- ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」

<特に全国値を下回っている項目>

- ・「将来の夢や目標を持っていますか」
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」

【教科・学習について】(<どちらかといえば、当てはまる>を含む)

<全国値を上回っている項目>

- ・「5年生までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」
- ・「算数の勉強は好きですか」
- ・「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

<全国値を下回っている項目>

- ・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」
- ・「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか」

3. 成果と今後の取り組み

今回の学力状況調査は、全教科全国値を上回り、良好な結果でした。これは、児童の日ごろからのがんばりの結果であることはもちろんですが、保護者の皆様が子どもたちの学習環境作りに日々留意して下さっていること、本校の教育目標でもある「自分の思いを自分の言葉で伝える教室」への取り組み、少人数指導や専科制の導入、ICT 機器を使った指導の工夫、授業研究等の成果と考えています。

今後は、これらの本校の取り組みを引き続き行っていくとともに、学習面では、日常生活や社会事象をもとにして、知識や技能を活用する力の育成を意識した授業づくりに取り組んでいきます。

また、教育活動全体において、子どもが持てる力を発揮できるよう安心安全な環境を整え、個々の子ども理解に努めます。そして、子ども同士が関わり、協力し合う取り組みを増やし、それぞれの良さが発揮できる場面を意識的に作り、自己有用感や自尊感情を育てていきます。

ご家庭におかれましては、引き続き児童に安定した学習環境と健康な生活リズムを作っていただくとともに、社会や地域に関心を持てるよう、テレビやインターネットのニュースを一緒に見たり、時事問題を話題にしたり、地域行事やボランティアに参加する等、社会参画の意識を高めていただきますよう、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。